



桜が咲く中、「水の日」法要の本堂へ行道する出仕僧侶



感染症拡大のため本堂内々陣で奉修された「水の日」浄水讃仰法要



本堂 半世紀ぶりの麗姿

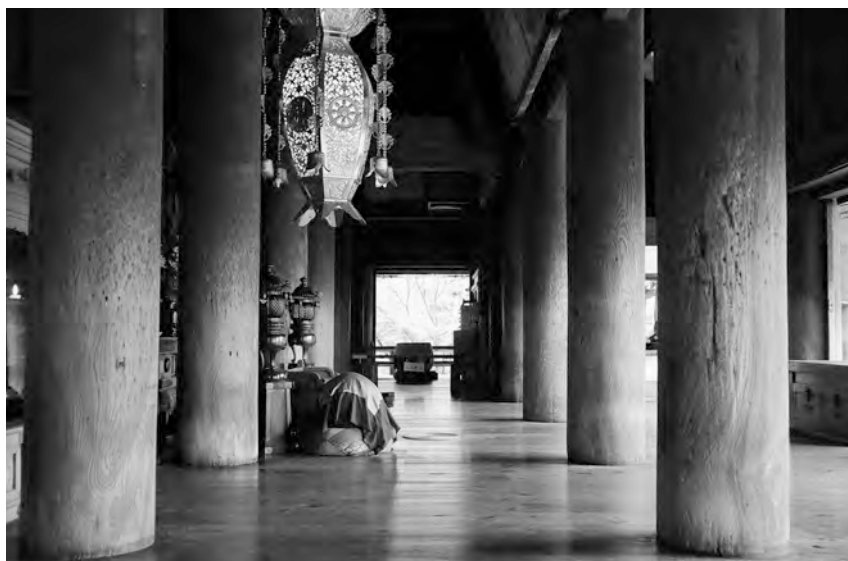




西門下を行道する青龍会



檜皮葺き替えを終えた本堂を背景に奥の院を出立する青龍会



静寂につつまれた本堂外陣

清水 第二一九号 目次

表紙題字・良慶和上筆 表紙写真・檜皮屋根葺き替えを終えた本堂	
千年余、神も仏も仲良く……………北法相宗管長	2
本堂屋根の檜皮入りお線香調整……………清水寺貫主	森 清範
大西良慶和上法話「信心の世界」①……………	15
清水寺に伝わる「おもてなし」の心①……………清水寺執事補	大西英玄
マスクと利他行……………清水寺執事補	森 清顕
五明洞浄墨「送清範印度聖蹟巡礼行」……………	45
『四十手深要決義』を読む 第16回 清水寺執事補 森 清顕……………	46
江戸時代初期を代表する仏像群……………京都大学教授 根立研介……………	56
本堂・奥院内法長押裏からの遺物 3……………清水寺技師 白石悦二……………	68
「清水寺・古写真館」昭和40年修正会記念……………	80
『清水寺成就院日記』第5巻刊行……………	81
『成就院日記』翻刻・刊行にあたって② 清水寺史編纂委員 川嶋將生……………	82
青龍会・外伝 3……………マフィア・コーポレーション主宰 岩田カズヒロ……………	94
森貫主がコロナ禍の中國佛教協會に激励の書贈る……………	104
中國佛教協會からマスクのお礼届き、施設に寄贈……………	105
水の日法要、出仕僧侶が本堂内々陣で厳修……………	106
開山忌、コロナ禍のなか初めて田村堂で奉修……………	108
内外往来……………	110

千年余、神も仏も仲良く

清水寺貫主 森 清 範

世情、新型コロナウイルスが猛威をふるい、感染拡大して大変な苦難の時を迎えております。一刻も早い沈静化を願って、毎朝の諸堂巡拝の折に祈願を込めているところであります。この間、不幸にして亡くなられた方々には心より哀悼の意を捧げたいと思います。

この新型肺炎が日本で大きく広がりましたのは三月のことでありました。今年は暖冬で、例年ですと三月十四、十五日の青龍会に仁王門前の老木の紅梅が満開になりますのに、もうその時期にはすでに花が散っております。珍しいこともあるものだと言った感じを抱いております。そして早々と桜が咲きそうな気配でした。

日本人は桜が大変好きであります。

敷島の大和心を人問はば朝日に匂ふ山桜花



森清範貫主

このように歌ったのは江戸時代の国学者、本居宣長であります。「匂ふ」というのは「美しく照り映える」という意味であります。清水寺の境内にもいろいろな種類の桜があり、もちろん山桜もありまして、その桜の花が朝日に照り映えるさまは実に美

しいものがあります。今年は残念なことに、ちょうど満開のころに外出を自粛するよう、政府や自治体から要請が出されまして、多くの日本人が桜を楽しめなかったのではないでしょう。

溪声すなわちこれ広長舌

その桜が咲くころに京都の西の方で造園業を営んでおります「植藤」十六代目の佐野藤右衛門さんの話が京都新聞に出ておりました。代々、仁和寺御室御所の造園をしてきた家で、第十六代佐野藤右衛門さんはユネスコ本部日本庭園や京都迎賓館などの作庭を手掛けた造園の名手です。桜が非常に好きだそうにして「桜守」と呼ばれております。円山公園の有名な枝垂れ桜もお守りをしています。

枝垂れ桜は江戸彼岸の一種だそうにして、条件が調いまずと樹齡が千年にもなる桜が出てきます。福島県三春町の滝桜とか岐阜県本巣市の淡墨桜とか、チヨイチヨイあります。滝桜には二、三度訪ねて行ったことがあります。丘陵の斜面に枝垂れ桜が生えていて、流れ落ちるように花が咲きます。「なるほど

滝やな」と思いました。町長さんに「子孫木があったらよろしいな」と話したら、「子孫木はもうできています。よろしい、清水寺に奉納させていただきます」という話になり、七年前に本堂と向かい合っています子安塔の東の丘に植樹されました。まだ若木ですが、今年も花を咲かせました。

さて、佐野藤右衛門さんはこれまで見たことのない自生の桜を山の中に探しに行くのが楽しみなのだそうです。行くときには前もって山の高さや小鳥がたくさんいるかどうか調べておきます。小鳥がたくさんいるところは桜の種を運んできて自生させるのです。そんな新種の桜を見つけますと「自分だけの桜」の花見ができるわけです。贅沢なことです。

清水寺の境内も東山の中腹にありますから、小鳥がたくさんいて、時に珍しい桜も自生しています。毎朝のお勤めで本堂に参りますと、いろいろな鳥が盛んにさえずっています。ウグイスがホーホケキョと鳴きます。そう、「ホー、法華経」と唱えてくれているのです。昼は聞こえない音羽の滝の音がドーンと響いています。西山の空には見事な満月が傾いて



桜が咲き東山の緑が迫る清水寺の境内

いて、足元には夜明けしたばかりの境内にポツポツと桜が花を咲かせております。「さすが世界遺産、むべなるかな。こんな光景を自分一人で見ているのはもったいないなあ」とつくづく思うのです。

溪声 けいせい 便ち是れ広長舌 すなわ しょうじょうしん

山色 さんしよく 豈に清浄身に非ざらんや あ しょうじやうじん あり

溪声は谷川の澄んだ水の音。それは広長舌、すなわち仏さまの説法の声であり、山の景色はけがれない仏さまの体そのものではないか。こう詠んだのは中国の大詩人、蘇東坡であります。清水寺の本堂舞台に立っていますと、まさにその通りです。音羽の滝のドーンと響く音といい、桜の花咲く清浄な東山の姿といい、どれをとっても仏さまの現われなのです。

孟春、獺が魚を祭ること

そんなことを思っております三月ですが、五日は二十四節気の一つ、啓蟄であります。難しい漢字を使っております。これはどこから出てきているのか気になり調べてみました。中国の四書五経の一